源氏物語評釋

夕顔

三

第三帖

空蟬

評釋

大曙文庫

帝国図書館蔵

帝国図書館蔵

帝国図書館蔵

○うつせみ

奮注 并一 此巻ハ源氏君十六歳の夏五月中旬より以後為巻名

てゝる木のとゝゝなるほゝゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

こそていとめ竪の弁といふこと八ゆるきこと[illegible]
をちらいへるあまこバ淺のそ[illegible]ごといひもちつべし[illegible]
今りさこまを設めまわして弁の表こといひてあるへしさるハ
もあ[illegible]ざれバこさて法師ふいそまこと[illegible]ごとく草生をこそ[illegible]
つく[illegible]いふかくべきをを人ふようて分ちりけるあまこバ海あ[illegible]
帝本ゆ[illegible]のつ[illegible]ふてさ[illegible]ふ弁ひる[illegible]
つ[illegible]ふ[illegible]ぎ[illegible]る文あまこぞ[illegible]
赤[illegible]ふを拾堅をかめさりといるものひざまよ[illegible]
及射の法ふて米を[illegible]年月のつ[illegible]八和で夕[illegible]
米をもひ[illegible]ていへまこバ弁の中ふ淺をこ[illegible]
きふ法ひつさぞれこふかくふ沉りの米ろぬいひざ海あまこバ一説ふ相童を一とし示さ二
こ示法をたてきを本の弁一とし夕部を弁二とし[illegible]
用めぞあ[illegible]びの米とハいへども一二三の次第ハつぎ[illegible]十四帖ゆ[illegible]て弁の米を例あるあ
として生ゆの米ふ屬ケ郡とし[illegible]ハ[illegible]ぞれ今ハ示法をこ夕部を[illegible]
こり又ひ[illegible]の米ふ次和ゆ米ようふ次く拾極米[illegible]までの九米をすべて[illegible]
弁とせ[illegible]ふ[illegible]ハ法ふいこまこ[illegible]
すべて八法氏君の宗ものさりを年をおひくめこを主[illegible]
弁まハあ[illegible]ぬものを牧をこゆもいめ[illegible]
してハ[illegible]わ[illegible]べ[illegible]さてもこ年立の米ハ舊注ハ處女米
むふ拾ふいこまこ[illegible]ごとくあまこバ[illegible]ふ次の米[illegible]

評 この米ハ帝本米をゆくりふきりて一米こと[illegible]
けくよむべし法氏君ハ方述ふ中河の女へおそて一夜ゆ[illegible]
を拾をちふおが[illegible]わすまこ[illegible]
さ[illegible]ふ米ぞりて[illegible]ハ[illegible]
まみゆ[illegible]ゆ[illegible]
示法の君ひてりにすづり出くおりひりけぬ彩陽荘よ[illegible]
めでこしさて彩ふく出ゆ[illegible]ふ老ぞ[illegible]
ぞぞくまていとをりくめでこしさてすべく[illegible]
米主ある者ふ彩陽荘をとり出てあるつふ[illegible]
ふいひくを主を答として主とゆ示法の男をこれいこでをつよくきりせる[illegible]
いみ[illegible]くめでこしさを女ハひぞゆふめこちの[illegible]
ひ[illegible]てめこちをもゆるまひをもなぞ[illegible]ふ[illegible]
あみぞ[illegible]ぬさ法ゆりてゆ[illegible]又[illegible]ゆ[illegible]
おひひまりゆ[illegible]ぬさ法ふめて[illegible]
かく[illegible]法の君ひ上よぞめてあ[illegible]
よう[illegible]赤[illegible]もいとゆ[illegible]ぬさ法ふめ[illegible]
○示法ゆ[illegible]ぬ[illegible]ふ彩陽荘のいぞ[illegible]
及射の孫ある[illegible]法氏君の女[illegible]
ふ[illegible]ゆ[illegible]ふ法ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]

秋山文庫藏書

をさ〻ら〻んことを惜〻しるあわれ分の事わるき
の巧やうなれよりをいまーめ〻ちまふふ〻のとてあり〻よつけく宇宙
ろのんをとりぐ〻よあるられるるのどと分のめでく〻さ宇宙の分れ良
けるそをこ〻ちあ〻まさるる八巻の初れ由ちるあれよひぐるせるるめとるんてて〻
るあ、いさづふんるるべうべあん

源氏君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらいふべもあくまるまざるのちひさく髪のやうにうごかふまぢけそひのやうにはやうをとうかひなりしかあれこまげめまし
あかぢふかづひ
湖師 暑さ　にかれてうんぬふざふあかのていけとのやうにくるとうけくまべかのうれまぞうまようるうんもあるりあうて　釈 めぐまし　おげあぐ〜我をはしまつのさまひまるまび　釈 まるざるこハ　ねぐろふむまくしまさくしとろ
釈 中はのあれば底ろうて終りう次いまるふ手結のもりまん
補 タるの下たよの字をそくんたべ山鼠ぬくるタ色必しもてふをハの字長やもあぬやぐてまあくてき〜
評 やはのやさまるたろうまとろうふつけても迷おそひ絶ゐもてさみうたうくべしまうてて又法てこびひうるよ東どうの絶ぎ〜んもうてあべ中ぐのようぬ

いやしいはくさうぐ〜とろふ三如と
オキノドクニモノサビシ
なうべかるさそうとちあふぶ
セギ　ノウド　クナ　（源氏物語）
あるてあ　ねげ　うふろとおりつ
慇　今
やがて性まを彩てやみのひまもうばううら
サツソク　ナニノヘンモナク　止　ツラカ
ゆ〜まるいくさいをきれふるやひの絶ざるん
ラウ　弁上（テ）強
ゆ〜ぬ
ヒヨンナコトデ
てんとれのふものうう生ぐなうべあぐゆん
モノアンジカ
ぐちれうの君ちぬづきなーとハちぐ　あぐら
ツガフナ
ゆんてやらやむまぐうゆんふうる足ゆくる
コノマ〜デハ　得　止　ザ〜ワルク
れあほ〜ゆびくぐ〜ぬにぬとたらもう
ツラガリ　小君　ツレナウ
まててもおぐあるたちひくぐひハうへせゆぬ
ヨクニモ　ムリニ　返へ　会釈

しもまくさうぐ〜ぬくて　従　苦　紀をぎうわぬぐたく
をみて　歎　面　ぬ　ぬ
まバぬづらちもくれどかるうるまてものく
メンタウナレド　方
まひまつもたぬうもぬぼくくう　嬉　約
なるさてちにいるくんをうふぬもまちわ
コヨリ空蝉ノ歌ヲ語リ始ル　タバカラ
ゆるふまきのうみくふくぐうなどーく
紀　守　国　下
ゆどちのどやうれるタやくれみちどくし
ドウシ　コロシツカ　ヨヒヤミ　路　オボツカナ　源氏ガ
げゆるやぎれよぬぐ東ふておくなるられさ
ケ　奉　児
もをちあたをいうれんとれぐ〜ぬどぎのも
ドウデアラウ　ウ〜ル
えちぬ〜のどむまぐうれればざんが
ミツム　ナンジ
ぬてぬ門などさるぬさぬふといそ
ブウ　蝦　前

止んとハふたりのうまぬぐんふかまてあるひうちにおぐあうくくく人のうれしまぐぐふかくもてとおかてていまあれふり
くあぐぐおあうちあり
新 ぎふそいるぐ〜もにうくく直あるようぬぎうんたぐ〜
あバうれ　新 古てふうるといふは只あるひそうをいふ世俗ものあぎむくんをあるやうあるさふ古ものきふうれハば
かるうぬても　釈 かる方とハぬ色のすぐをいふ源氏ものめでられたる紫〜まりうるあふるうもこてををぬをすふ面係あまぐどれんぐうふぐ
しうのまをとんしとてとてもこれも男色をものかく〜こる脇あり
ウ　脇
ウ　河　百ふ四世ゆやみハたぐどくく〜ぬまうてかくまこうぐせこ
そのまふるんん
るる車ゐておそてちる　釈 ふ君あ
車ふのせをうて奉ヒテ　てまくさて
こくふんいまつのをうせば
釈 こうれハふぬの方をんふぐこつる
ぐうハ追従ありその字ハ下学集ふ

見舞と称して御おいとま
ひんぐのつまどふる〜

(釈)南西の方れんあの妻戸あるを源氏さんをたゝせちかづけて小君ハその南の廂ハ間の格子をとりまきてあけよ
などいふに日さしこけこゞしくのゝ
とあけさせて入るゝ〜さて女房をそ
のまゝふたげ奥て源氏を入れ〜んを
せしを女房りんくあハるゝといふ
なりゝこゝをふまゝ〜あけ〜せんを
て格子の下されゝを見を向ふ〜ゝ
をのゝ法師ゝ〜ける人ゝあるゝゝ
していとゝめでゝ〜

(評)の位ゝれ (細)伊予介のむすめ
彩霞萩ゝ中将のまゝゝしはゝの西
の方ふるゝてすゝるゝゝべ〜
さて四ひゝ〜んを見ばやゝとゝて

(評)小君をゝでゝちゝの間ゝをいとゝさて
源氏さんのいまゝを視せ申せ申ゝ
ハさ〜ふめでゝ〜ゝのゝちゝ小君ハ
入ゝゝのゝ〜ゝを見るゝゝ下ゝふ
ゝいでゝゝゝちすれゝゝゝゝ〜ゝ相
思ゝて見ゝ〜
やゝ〜ゝおもゝいで〜 (釈)妻戸の口を
歩くゝ出て簾のゝまゝ海ふ入ゝゝ

人ゝゝぬるゝよりゝゝきゝいれてゝゝゝゝ
る。わゝ人なゝまゝゝゝとゝのゝゝ人ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あくまでべに側やるハ樓かよりなる
うちかり
ぶよくあんうへまさて
評 表のえとうーのさうぬふ花よ
よりてよくもえぬさゐを題ざん
とてなかあんといくめでくし
めかなどもをく 評 られよりぞ恠の
用ゑふえさまをいて些恠かちち
よくねど用さあえくとかちちよみ
までゐさあえくとを反對とさう
よくくまさふ
ふつさう 畑 春を初ふまりハ
あべきをもよえぬに引ふえを
用さはふぬ作あり
ふちえぬつ瓶 釈 ぶつハめくとえ
ふをーえ形容辞へられをえをよ
ありとりていへまり
えべとをかや 釈 られよりえを
伊子物語むすめを世ふあく是
ふさぶとを伊ふられさ侍ふ出るく
ふちをれちづりあけとをへぬや
評 こまりあり上ハ容貌のめでらえ
ようをあげてらふこめさとびき
きやくめくうえ保ハ先ゆこちの
ふちえをつひて次ハ用さのあえを

めりいはひ人ハ沈んげーむさてのこ東向
こゆ。ちえ白 羅 単 重 二 蔭
こうちきぶ桂 孟袴の襠 つのないぐうよきれてとし小 紅
なのう腰 ひさゆへるきんゆでもむひあくハ結 際 胸 顕露
小だうてくるめてなくれいとちうジダラク 身カラ
をうぶよつぶくとこうて抜ぶちるくの。ウツクシゲ
かうつえ頭 ルくトフトリ セイタカゲ
くちはえぬいとあいぼめうづえぬやはちるかく額 愛 敬 ハツキリト メモト
ちれちぶうこ髪 クチモト ふさやうふてなぐくふあくひど。リッパ
はぐうぬかられどいとき清 ゆげよすべて拙ぢけ惣 ユガミ
下端 肩 アンバイ
うるまくぶをうぶなるくとんくうう。ウツクシゲ

あくハぢう抑揚反対をの渋おぐ
そうふうとうあくくー
おぐふえよあるまぐ 釈 源氏ふ
のやよありて苔ま地より詠ふる
あり文物あぐハひいり
ごうちまそて 釈 ちよりう又源氏
君の見ふまさまく初湯殿あり
ちくの人ハ 畑 ぞほくゆ出の更衣
そこハぢまそてあくめ
玉鬘 持ハ今侍ふふせきあくえ庭の
の碁ふすれふとう 雅業 左信義
変棋謂不能相宣為持
すくこの所く 釈 ちう壁のちくこ
の地をちうふるまぬくちうひハぐ
指のくのふくと上ふえくう
いよのゆぐくも 花 三六花条ふ
古ふとてなぢう いよのゆえもげる
の殺ハ左ハ九ッ 中ハ十ハまべ
てこすこえくといのう 河 陰 休憩抄
伊勢物語 雑業催馬楽 いよのゆえ
ゆげふハいくつまくびやうぐく
むやふをへぢくのあびやいこよや
ふよや君ぢちくんや 畑 殺をき
生ふいあこ又今父の伊ふへりりさ
ゆちく似今ふう泊く 釈 初花殺の

うぢこそおやの世よなくハ初めふくめ。とお親
ナルホド
うーくえ行ふふちちぞのかちづちなるけ伝。
そくぢやとふとみゆるかやるあえよハのるまぐ。
ごうちちそ 竟 ちちさえるうんいとげよん
えくそきはくとさうどけバ初れくハいと
ちげうこのどえくそまちちくやそこちぢく
こくやあるくめ。あのわくれうをこくぶどい
へどいでうこの特きびいはけふうますみの取く
いでくとちよびをかぐあくこうをうこみくおく
などかぐふうさ侍いよのゆぐくもうぶく
うるまぐうくうぬすこ侍れ初まくく

碁の地をどゝゐるきまのあるとゝ
ある殿ゐの左八右八九あどゝゐ
のるゝへざ侍ゐよへてゝどゝ〳〵
うゝまゝと戦きてゝゐゐ
すゝゝゝゐゐれゝゐ　釈 新猪
新の人ゐゐ侍ゐよりゐゐゝゐゐゝゐ
といてゝゝ上のゐどゝゐ紀ゐゐるゐゝと
いゐ侍とゐゝく源氏ゐのゐゐゐて
ゐゐよ地ゐゐ侍ゐゝゐゐ
ゝゝ〳〵へゐくゐゐゐひて　主 新猪
萩のゐどゝゐくゐゐゐゐゐゐゐゐ
く見ゐゐてゝゝへゐゐゐゐゐゐ
侍びゐて　主 あゐゐゐゐゐゐゐゐ
とゐひゐゐ〳〵紀邪ゐゐゐゐゐゐ
ゐすゐゐゐ氏河の源氏ゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐぬゐゐゐハ　釈 ゐゐゐのゐゐ
信実ゐゐぬゐゐよハ新ゐの猪をゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
えゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ猪ゐゐゐゐゐゐゐゐ　評 これや
ゐて下の八ゐゐゐを引ゐゐゐゐゐ
ゐゐゐ侍ゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐの人ハ　釈 源氏ゐの
ゐゐ猪ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

あるしふかくゝ作りあバ
釈 彩雲花のおのゝまむ西の方へ
くゝりあバとゝのさく
さもあびゝつべき 釈 小君ぞ
よゝゝ行あんとゝゐをきゝるひて
さゝゝゐもいひあびゝすゝべきゝゝ様
のけゝゝゐゝん小君ハ見ゝハあれど
ゐのゝんぞ人のゝゝさゝあ見ゝべく
まづまゝゝゝれバゝゝゝひゝゐふゝゐゐ
世ゐいさゝゝ行ゝゝりゝゝゝかくゝん
ざれバ心ゝぞゝゝよくくゝゐみべし
このゝゐゝゝゝハさゝゝてんゝて
釈 上文ゐ小君ぞたゝきのゝゝゐて
入ぬとゝひ汝まび入つゐゝゝゝいま
ゝさゝ格ゝゝとゝる格子のすゐゝく
今まゝく小君ぞ出ゝく外ふけるを女
房のさゝんゝてゝゝゝ君ハゝくゝとひ
てゐゝてゝゝまゝく格子のゝ尾ゝ様
ゝのひゝくゝゝでゝゝゝゐゝハ格子
をさゝハゝてゝゝきゝすゝるをゝゝゝ
まづまゝりぬゐゝ 釈 夜ゐまゝ
ぬゝゐゝゝゝゝゝより源氏君の羽し
小格ゝ地の羽ゝゝゝれゝゝハゝゝゐき
ゝゝ日補注ゐもつゝ
いゝゝゝと 釈 妹人の

こよひりやゝゝてんとする。ゝゝゝゝのゝ
今夜
からうゝゝゝゝゝゝあべゝれゝゐのゝゝべゝゝゝゝゝゝ

たゝみひろげて 釈 古への畳は今のゝすゝくるまゝ 釈 畳は世俗より臥具とかせこゝにひろくとりちくねとゝのゝとゝとゝ人とまゝ一めんにくさくく寺ふねぬ所るまゝは敷べきものなれあくようすゝくるの畳をひろげてを上ふ所くるく法師ふ屏風のゝとゝ

ぞぶち 末のひさゝに 評 中世の方ふ人すくるはとゝかのんとてまづかくらくゝ

ゆかちつゝ 評 上ふ妻戸をさゝれているとある所ふ内うゝをあけさうるてゝく上ふをゝゝとゝいとゝれどもあけさるる人ふ必あゝゝをゝひくかくうゝゝゝぶあるまづうゝ仏のゝとくくゝくめでゝと 釈 をあさふゝはぞぶちのねる末庇くされば屏をハせのゝゝハあゝゝ

をゝゝうゝゝるるもてを 釈 或ふ人をのせるるふもあゝゝ幼きをるゝあていゝと見くゝめゝゝとゝつり

あやの末丁ばゝゝび 釈 中ほの寝ゝゝあやの本丁れ

とてたゝみひろげくふをぞぶちひんがゝにゝ 畳 東

ひさゝにぞ 鹿

わゝハもゝ 童 世

そねゝて ネタフリ

かげかのゝなる 影 カスカ

ぐぶゝさゝ ラシイ

ゝまでゝみちびくまゝふ 導 身屋

ひれあげくぞ 引 上

ちづまゝる ネシツマレル

しもいとゝ 著

ふれまゝひなせどゝ

ゝ方 明 源氏ゝ

ぞぶちゝ ソツト

ゝまゝ ドウデアロ ハカ

ゝまでゝ

ゝ君カ

ゝ君カ

ゝ君カ

をきく。ずぶうぬれ出てうつ。源氏 スホヌケ 入ひく。ぐしょ
ぬれ。昨 ぬれやすくばかりぬれ。床 ぬれ。ぬれる。衣 ぬれを拭。ノケ
ぬれそうの。ノダアヒ ぬれ。コエタルヤウニ ぬれ。ゆきど。
ぬれ。メノサメヌ ぬれ。顕 ぬれ。シダイニ ぬれ。
ぬれ。サグリアシニ 意 ぬれ。
ぬれ。フシギナ ぬれ。カクラレク ぬれ。ミラレン ぬれ。
ぬれ。バカ ぬれ。寄 ぬれ。コレホド ぬれ。シヤレ ぬれ。
ぬれ。ウツ ぬれ。カツタ ぬれ。影 今人 ぬれ。ドウシヤウ 今ヘ回 ぬれ。

ぬれ。ぬれ。ぬれ。

（釈）世中　トヨ女のおもてはなさく
物語ハ男女のあはれをもとむ
るものなれバ　うるはしき
うるはしく　源氏のかくうるはしく
をとこのかたちをもとむ
心をもとめ　とく万水一露ふくやまぶき
人よりあひるやうにおもひ
とりてハ　ものゝ　ひがことを
世をつくるわも　（註）つくむ　つくむ
ことゝ　（釈）ものゝ　ハつ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
うるはし
さどゝん　人ハ　（釈）さどゝん　ハ
あてふ　摂津　さぐり　ものゝ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ざゝ　ものゝ　ハ
さることゝ　ものゝ　ハ
（釈）上ふ世中をすぐしひちぬれど
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
あやふふ　ものゝ　ハ
（釈）かくもあるさ人ハ　ものゝ　ハ
めさまさてもこひしきすべをあれ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ

まぐいとわるきあちにぱらてさーもだらこ（方ヤギ）
うるまでどえ・（得）をそひるとぱ（分）ふくとる
れどけんとまるべたゆるもあたらちーく。
なかくれうまつる（ツレナキ）さ人のこころをいみじくく（ヒドクウラメシク）
ぼをぱぐとるちひぱたまくかくれこと（コツリカクレ）こひ（アボナウラナシイ）
あるーんかくちあねき（執念）人ハ（ヒブトイ）ものゝ（メツタニナイ）おとと
おもわれる・を。（金剛ミイ迷）ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
出れまふぱのあ（ノボバ狭）ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ふるもあひもあ（アンバイ）れおまてぱ（サツハスモー）ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ーく（ヤクツクシ）ものゝ　ハ（添）ものゝ　ハ
かやうあるハのそれもそ（添）ものゝ　ハ　ものゝ　ハ

の神ふわやあるこんぢーあるう
をこーとあ脇すて源氏ものかー上
あるうんをるるべー
人ちるるこるうも　（釈）あべて
世ふ別れ人ふ別れさる中ようを
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
（釈）世ふ恨ーぞかるひ来べき河
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
さるべ人ーも　（釈）ーく　ハ伊ふ
水能伊ちぬ底ぢ　ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
（註）ぱをふよのつ
祖のおーざるふかーく　ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
とあるーるーさすて世間ハ俗
ふ　ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
（評）かくのさまふ新物語のひ
ーくれ　ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
ものゝ　ハ　ものゝ　ハ
（消息）

人をいひるるあ。（相）あひそひ給へよ。つむ（カクス）ことを
しーもーーー

[illegible]

国 一本ふかくあるぞよろしかぬき
すべしとあるのは源氏まんがしらふ和
のふうしをきばとあるとあの何
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

キヅカハシウ うしろめたうもひつて 猜 ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

ダウニテ 問 ワレガヤ 答 ぶぶちは ぶぶちは 此 ぶぶちは
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

歩行 ぶぶちは ぶぶちは 外様 ぶぶちは 来 慌 ぶぶちは
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

リウデハナイ あるつ ぶぶちは ぶぶちは 隈 ぶぶちは ぶぶちは
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

湖面のうげく 影 ぶぶちは ぶぶちは 人 誰 問
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

部 御 許 ケシカラヌ あるべ ぶぶちは ぶぶちは 人 誰 問
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

長 立 セイノタカイ 常 ぶぶちは ぶぶちは 人 誰 問
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

笑 老 ぶぶちは ぶぶちは 人 誰 問
ゆをふれば ふとはぶんら
ゆをふれば ソワト おあるこぶらい 御 寄 光 おいるぶらい
あるべくれば云々 釈 ぬぎすべしは
ぬぎすべうして指をさす上ひ
くへひくをきてとあふてして
ふんべし

ふくゆびをきぬ 釈 ふきてあるる
ゆをやをるもあくふ 釈 さればふ
きふあけさせて小者ぞ入るつ
ゆあるべし老らうぞちは東の底よ
ゆるる女房のうちあるべし
さうがくてとぞあるべく

新 突ぶうしてく 釈 老女のかりと
ぶてしてくれの方あるべくるべく俗俗
ぶぶいあををえとさるびべく
いとふてて 釈 小者ぞうを老女の
さうるをかくおびえてく
あべし 国 俗あるいや俗ぶるを
くふさあり
暁ちろ月 万 あふ夕をとみ
る初の深夕 つ中
又ふいするいく とあるく

細 此女の [illegible]
民戸の [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

あぐるとて新さらく八ぶ
しにべんをいさしてまだいの
あくぬあり
いよく〜おだしてうぬべ〜 釈いよく
とつて上ふこのあををきあたをう
あんとおぐせどいひいうぐをを
がゆきまもてこもどをふあど
あうふ数くいあ〜とハくあう
湖月抄法よりやはのつまるがふう
あうくとくとくハくどう
評このあぐごうふ出あひあくこ段
ハ法花経時ふ出てくさうのやく
くさんのあれ法よりあくをき
ちくん車を時くうる手づうひふ
べ〜いとく〜あぐ〜く
ゆくるはのちうふて 釈小男は車の
ちうふ出てあ供をるあう
つまくぐたをつて 釈あくく恨
出舟のさまくつまくぐたハ爪をた
をさるあて淳くくあう
あもうく 新こハ身を初る俤
まて考ふうさ身とうあ同下
あうつるこうちきを
評上ようを ひをとうてくあるを
くふ小者と、 てうまぐあやそ

うりきうといよくおだ〜うぬべ〜 懲
車のちうふく。二條院ふれくもめて
後来
さはのうまひてをさしうるあとあをめるひ
雑
てかのくんれんをたまくだをつてうみ
空キ
まふ小男キ
ふ小男キ
ノドクデ
むくてこ行ふべうめれバ身もうくらひとてぬが
ツラク 党
どうトこ
ヨツナカフ
まふちぐ。いよのすけよおとうる身こ我。
伊与介 劣
などんづきれ
ケレバ
こうちたをぐさすぐにたそれたるふひさられ
小 桂 サウハイフモノ、 衣
ておやこめまうを君成おすへよこせく。
御 寝 御前

よろづ
カクテ二ハ
らうくみうくかくひ行ふ。ひくは
五十子
らくくれど。ぢくくれゆうつにそ。ろあるひ
カハユ ツレナキ人之 縁
ちつまぐきれ。とやあやうにのうまをいとは
シンジツニ
びくとらひくう。ちぐ〜おやくくうど。祢
トゲ ライ 源
らまのだぐ。ぐいそぐめてさくく
硯 召 ワザ
くふこふハあくで。きううぐみよてるひ
イくぐ 畳 紙 手 曙
のやうまかきすきびうふ。
ムタガキシ
ほ氏君
うつせみの身をうくてうる木れとふあ
蟬 ヤハ
人ぐくれなつうくれかれ。とうさ行へをふと
ボん 懐
こうふ
中
らんといくりきれどかぐ〜あるほうく
入 特 有 ノキバ 蝉 アチコチト

ことづくもなし。かのうすぎぬ。こう
ろいとあつうしたる人がにほひあるを。ながうさ
しつて見んあらてゝ。こゝ君うしたにいきてまゐば。
あの花君まちつけきくいとうでうのおふあさぬ
空セミ　彼処　花　空羽　ウケ　テヒドウ
うしたにとかくきだてちてもゝ人のおもふん
カツタコトニ　トヤカクヤ　ヘギラ　カシ　キヨウサメ
こゝろさあ　ノガレ　イをさあきんむくを
かうつゝ　ジウクハイナルヲ　〔源〕カタテニ三
とてもづうしめるひぶうみぎにてくく
ハヂシメ　アチラコチラ　空セミ
ねへどかのれてあしひとりいでゝ。さすがに
〔奇〕ヲ
とうくんふのめをいふいせをのあ
キム　メケガラ　ドウヒヤウ
まのあいなれてやあどおのまを寄ぐあ。
ニ　ヒトリ　ウスク

（釈）ふいとのむかんハふぶ　ぶ
どをさはぐよ悔うまをうく
とハつてあるゝ
人が（湖）人香しうるのくく
んぐさうをを（釈）おくあのきろ
あくあさてこ蝶ちくるを
ふをさあくしつるく
ひぐうくぎふ（花）源氏ハのあん
ふ恨をまあまはハぐくめるふ
小君ぐたちうくくあく
ハくよあくい（釈）ふをあひあ
ふむぐうをするをい人ゝせうとと
ハきくくえく
さすぐにうてんふ（釈）小君
をうぐうあうあのうくさすぐ
よとうてんるく行あとうけハ世の
語をぐくい小君ぐんふあうていく
あやてふとうちひとうくあ
る。
いせをのあれ（河）後撰
〔ぐ〕川伊勢をのあれをを
ちやかれうとと人やるくん
ふ恨人ゝれあつくにうあ
ふをくくた

づうくくあ　ゝく（釈）ちかお
ぶハ垣おくぐれるをくく
ゝぐあ（湖）源氏をあり
（釈）ゝをにはぐをくくぐふあで
きあぐくをひらぐくく
ふうう　ひをう
（釈）ぶうくくあにあをあるが
ぐくあもけあれぐあるぐうにた
ふうくふくあれハ旦注ぐくおう
くるあぐ
小君のをうあうくま（釈）源氏
のけかくうお移の方へあてあう
くあく（新）此小君ってまくあ
とおをうおきひふうあをを
おりあう
ゆせうとうのあ（釈）男女あひ
ゝこのあくく消息をるふをあ
うみのあくうなり
あをうくく（釈）ゆせうそ
ゝもあにをふにを源くあん
くてあをうくくもあにをて
きくるくをあをひくうあく
あくくれうく
（河）
えあのあもぐ女や男ゝ
むぐあにあちメ

いとよろぶ（万）よみぐれうう。ふ一の君ぶ。拍ぐび
（愚）（西）（焦）教（今）コマラ
うにたくくちくてぶうあうひよくあまくを
（今）方（方）カヘリ　（久）知
人をあにを本なきバ。へにれぐあ。あめて
タバヒトリ　ソモノオモヒシテ　ヲトガメナ
みるうう。こ君のうをうあうくにたけてと。
む祝ひ。ゆるぐれぐ。ぶせうてもを。あを
フサ　フトツミレ　キヨウ
ゝくをひうくくもあくくぐれるくち
サメイ　得　シヤレ
よりのあれをぐ。つまるをくく人。をこ
モノサビシイ　空セミ　サウハ
ぶ恨ちづむまぐいと。うをくくあもあ。ぬ古
今西　浅　（源）
ゝくにをぶあうくのわぐ分あ。ぶと
（見）モト、マ、ノ
ゝくあをあなくねぐ。ちのびぐ
モドス　コラ
この山寺くくぐ。
畳　紙　片　方

[illegible]あるて既よりカ
こゝろてすしのまゝ[illegible]
ちゞ[illegible]白ふるゝ[illegible]
あゝんをとゝうゝ[illegible]
知られてものゝ[illegible]

[illegible]
[illegible]この句今為伊勢[illegible]
[illegible]
[illegible]拾遺[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ちふおくものの記げられて
羽　今ノ　鴨

[illegible]のびよぬゝ神ら礼

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]